

介護のつどい(その②)

～若年性認知症当事者の方のおはなし～

7月15日(水)10時から、若槻コミュニティセンター大会議室にて「介護のつどい その② 若年性認知症当事者の方のおはなし」が開催され、40人を超える参加者が当事者の三村俊治さんと高橋あけみさん、長野県若年性認知症支援コーディネーターの伝田景光さんと小池嘉子さんの4人からお話をお聞きしました。

今回いらして下さった当事者のお2人は同い年の57歳。三村さんは昨年に引き続き、当事者の思いを語って下さいました。コーディネーターの伝田さん曰く、認知症は人から様々な能力とそれに伴う肩書をはぎ取ってしまい、その結果当事者は大変な不安と寂しいという感情が湧き、自信を失ってしまう、との事です。高橋さんは生まれ育った場所に帰りたいがる行動を繰り返していましたが、それは不安や寂しさからでした。

終盤、参加者からの質問「近所に認知症のかたがいたらどう接したらいいのか？」に対し当事者のお2人は「認知症に関わらず接して欲しい」「認知症のバリアをはらないで欲しい」と話されていました。

認知症当事者の方から、現在の生活と気持ち、希望をお聞きし、今の自分にできることは何か？を考える有意義なつどいでした。



小池さん

三村さん

伝田さん

高橋さん

(福祉部会)

戦没者追悼式の開催

明治以降、様々な戦争に出征し、戦地で亡くなられた若槻地区260余名の戦没者を慰霊する追悼式が、6月29日(月)に若槻コミュニティセンター・三登山ホールで執り行われました。式には、ご遺族をはじめ、ご来賓、コミわか正副会長、区長部など総勢46名が参列しました。

国歌斉唱、黙禱に続き、コミわか会長の式辞が述べられ、長野市議会議員・滝沢真一様、遺族会会長・水上眞夫様より追悼の言葉が捧げられました。最後に参列者全員で献花を行い、静かに閉式となりました。

遺族会会長・水上様のごあいさつでは、戦争に突然駆り出され、想像を絶する過酷な環境の中で戦い、故郷を想いながら命を落とした若者たちの姿に触れられました。一方で、現在の平和で物に恵まれた社会に生きる私たちが、その尊い犠牲を十分に心に留められているのか、改めて問い直す必要があるとの思いが述べられました。

かつて世界がこのような厳しい時代を経験したことを次の世代へ伝えていくことが、残された私たちの務めであり、戦没者の御霊が安らかであるよう心から祈念したい、と結ばれました。

(区長部)



水上遺族会会長による追悼のことば

令和8年度支所発地域力向上支援金事業の交付決定について

令和8年度は、次の団体・事業に対して、支援金の交付を決定しました。

支所発地域力向上支援金事業は、地域の活性化及び課題の解決に向け、地域の団体が行う地域力の向上に資する事業に要する経費に対し、地区の状況に応じて、予算の範囲内で支援金を交付する事業です。

(若槻支所)

団体名	事業の概要
上野区	安否確認タオルの購入
徳間区	神楽用太鼓締め直し
吉区	地区清掃活動用プロワの購入
東徳間区自治会	地区内公園等草刈り用充電式草刈り機の購入
若槻団地自治会	自主防災活動用リヤカーの購入